

## 引用文献

- Capogreco, J. V., 1989. Immature *Lebia viridis* Say (Coleoptera: Carabidae): Bionomics, descriptions, and comparisons to other *Lebia* species. The Coleopterists Bulletin, 43: 183–194.
- 石谷正宇, 2008. コルリアトキリゴミムシの生態. 昆虫と自然, 43 (12): 24–26.
- Kasahara, S., 1991. Occurrence of *Lebia viridis* (Coleoptera, Carabidae) in Tokyo. Elytra, Tokyo, 19: 124.
- Lindroth, C. H., 1969. The ground-beetles (Carabidae, excl. Cicindelinae) of Canada and Alaska, part 6. Opuscula Entomologica supplementum, 34: 945–1192.
- 森 正人・古巻 進, 2012. アトキリゴミムシ類の生態に関する覚書き. さやばねニューシリーズ, (6): 38–40.
- 中根猛彦, 1989. 移入種と思われるアトキリゴミムシの記録. 昆虫と自然, 24 (8): 33.
- Say, T. L., 1825. Descriptions of insects of the families of Carabici and Hydrocanhari of Latreille, inhabiting north America. Transactions of the American Philosophical Society, vol. 2. pp.1–109.
- 吉田浩史・初宿成彦, 2009. コルリアトキリゴミムシの淀川河川敷からの記録. Nature Study, 55 (6): 9.
- 吉田浩史, 2019. 神戸市とその周辺における分布拡大中の昆虫についての調査記録. きばりはむし, 41 (2): 32–35.

(新井浩二 355–0216 比企郡嵐山町むさし台 3–22–13)

## 【短報】岩手県で採集されたシロオビチビサビキコリの記録

シロオビチビサビキコリ *Adelocera (Brachylacon) difficilis* (Lewis, 1894) は、岐阜・静岡以西に広く分布するコメツキムシで (Kishii, 1999; 豊島ほか, 2015; 平井ほか, 2018), 常緑高木のシイやカシ類が多いところでよく見られる種である。北日本における採集例はほとんどなく、岩手県盛岡市下厨川東北農業試験場のデントコーン圃場に設置された黄色の昆虫誘因器で捕獲された個体が唯一あるだけである (河野・気賀沢, 1990)。岩手県の目録をまとめた岩手県生活環境部自然保護課編 (2001) は、河野・気賀沢 (1990) の記録を引用しているものの、「北日本に分布する形跡なし」とし、岩手県での生息には疑問を投げかけている。



Fig. 1. *Adelocera (Brachylacon) difficilis* (Lewis, 1894) from Iwate Prefecture, Japan.

筆者は、岩手県二例目となる個体を検することができたので、ここに報告しておきたい。

報告するにあたり、標本をご恵与くださ

た東京都の青木淳一博士、文献や分布確認でご協力いただいた千葉県立博物館の斉藤明子博士と仙台市の伊藤智氏に厚くお礼申し上げる。

1 ex. (Fig. 1), 岩手県金ケ崎町永沢島の海上, 27. IV. 2017, 青木淳一採集 (筆者保管)。

今回、岩手県から本種が再発見されたことは、これまで疑問視されてきた岩手県での生息の可能性を示唆している。しかし、岐阜・静岡以西にしか生息していない本種が、関東を飛び越えて東北の岩手県に隔離分布するというのは、不自然に感じざるを得ない。静岡以東で最も生息の可能性の高いと考えられる神奈川県でも、また、温暖でシイ林が良く残されている千葉県でも、本種の生息は確認されていない (平野, 2018; 鈴木・山崎, 1999)。このようなことから、寒冷な岩手県にもともと生息していたとは考えにくく、本来の生息地から植物などと共に運ばれた可能性が高いように思われる。

## 引用文献

- 平井剛夫・福井順治・諏訪哲夫編著, 2018. 静岡県昆虫集録—駿河の昆虫編— . 672 pp. 静岡昆虫同好会 .
- 平野幸彦, 2018. コメツキムシ科 Elateridae. 神奈川県昆虫誌 2018, 2: 392–405. 神奈川昆虫談話会 .
- 岩手県生活環境部自然保護課編, 2001. 岩手県野生物目録 . 492 pp. 興版社, 盛岡 .
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (43): 1–144.
- 河野勝行・気賀沢和男, 1990. デントコーンを加害したコメツキムシ類. 北日本病害虫研究会報, 41: 147–159.
- 鈴木 互・山崎秀雄, 1999. 千葉県のコメツキムシ科甲虫. 千葉県動物誌: 602–612. 文一総合出版 .
- 豊島健太郎・青木哲郎・木野村恭一・桐山 功・野平照雄・高井 泰, 2015. 岐阜県昆虫目録 III コウチュウ目. 786 pp. 岐阜県昆虫分布研究会 .

(鈴木 互 211–0031 川崎市中原区木月大町 6–1 法政大学第二高等学校生物科)

## 【短報】静岡県におけるナガタムシ属 2 種の記録

静岡県からはこれまでに 78 種のタマムシ科甲虫が記録されてきた (多比良, 2004; 平井ら, 2018; 酒井, 2018; 笹倉・阿閉, 2018)。筆者は、2018 年 7 月および 8 月に静岡県において記録がないナガタムシ属 2 種を採集したので、静岡県初記録としてここに報告する。本稿により静岡県のタマムシ科は 80 種になる。以下、採集・保管は全て筆者である。

1. ヒロオビナガタムシ *Agrilus sudai* Y. Kurosawa, 1985 (図1)

1 ♂, 静岡県駿東郡小山町上野, 7. VIII. 2018.; 1 ♀, 静岡県裾野市須山, 23. VII. 2018.

本種は、体長7 mm程のナガタムシで、岩手県産の個体を基に記載され (Kurosawa, 1985), 北海道および本州, 四国に分布する。寄主植物であるヤマハノキ *Alnus hirusta* (カバノキ科) の梢のスイーピングで採集されるが、少ない種とされている (大桃・福富, 2013)。筆者は、ヤマハノキのスイーピングおよびヤマハノキ周囲の広葉樹のスイーピングで得ている。

2. イマサカナガタムシ *Agrilus imasakai* Tôyama, 1985 (図2)

2 ♂♂, 静岡県駿東郡小山町上野, 7. VIII. 2018.

本種は、体長5–6 mm程のナガタムシで、長崎県島原眉山産からの個体を基に記載され (Tôyama, 1985), 現在では本州と九州から記録がある。シデ類のスイーピングによって採集されているが稀な種で (大桃・福富, 2013), 前種とよく似るが、以下の点などで区別できる。1) 前胸背板は後方で狭まる, 2) 下側隆線は前方2/3に伸び、側隆線に近づくと結合はしない, 3) 雄交尾器の中央片先端は尖らず、前種と比較して鈍角となる (大桃・福富, 2013; Tôyama, 1985; 石黒, 2015)。

筆者は、本種をクマシデ *Carpinus japonica* (カバノキ科) のスイーピングにより得ているが、岐阜県では8月に同じくカバノキ科のイヌシデ *Carpinus tschonoskii* のスイーピングで得られており (石黒, 2015), 盛夏の山間部各地におけるシデ類を害していると思われる。

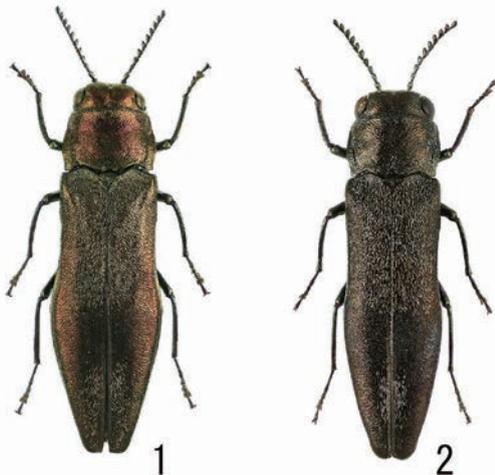


図1-2. 静岡県産ナガタムシ2種: 1, ヒロオビナガタムシ; 2, イマサカナガタムシ。

末筆ながら、同定に際してご教示いただいた福富宏和氏 (石川県ふれあい昆虫館), 原稿の校閲を承っていただいた小島弘昭教授 (東京農業大学) に厚く御礼申し上げる。

#### 引用文献

- 平井剛夫, 2018. コウチュウ目. p. 165–344. 平井剛夫・福井順治・諏訪哲夫 (編), 静岡県昆虫集録: 駿河の昆虫編. 672 pp. 静岡県昆虫同好会, 静岡.
- 石黒昌貴, 2015. イマサカナガタムシの岐阜県における記録. 月刊むし, (537): 58.
- Kurosawa, Y., 1985. Notes on the Oriental species of the coleopterous family Buprestidae (IV). Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, series A, Zoology, 11 (3): 121–170.
- 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
- 酒井 舜, 2018. 静岡県初記録のマサキナガタムシとその後食植物. 月刊むし, (572): 58.
- 笹倉靖徳・阿閉耕平, 2018. 静岡県および山梨県におけるアムールムツボシタムシの記録. 月刊むし, (574): 2.
- 多比良嘉晃, 2005. コウチュウ目. p. 107–163. 静岡県環境森林部自然保護室 (編), 静岡県野生生物目録. 198 pp. 静岡.
- Tôyama, M., 1985. The buprestid beetles of the subfamily Agrilinae from Japan (Coleoptera, Buprestidae). Elytra, 13 (1): 19–47.

(佐伯智哉 243–0034 厚木市船子 1737

東京農業大学昆虫学研究室)

#### 【短報】宮城県からのニセヨツボシテントウダマシおよびベニヨツボシテントウダマシの採集記録

Sogoh & Yoshitomi (2017) によって、日本産のヨツボシテントウダマシ種群が見直されたのはまだ記憶に新しい。それにより、近似の3種が日本に確実に産することが明らかにされた。各地に普通にみられ、個体数も多いヨツボシテントウダマシ *Ancylolus pictus asiaticus* Strohecker, 1972 に加え、ベニヨツボシテントウダマシ *A. phungi* Pic, 1926 とニセヨツボシテントウダマシ *A. borealior* Strohecker, 1972 の2種の存在が広く知られるところとなったのである。

直ちに関心が集まり、ベニヨツボシテントウダマシについては、各地から記録が矢継ぎ早に報告され (千田・十川, 2018; 亀澤, 2018; 日下部, 2018; 伊藤, 2018; 大川, 2019), 国内に比較的広く分布する実態が急速に判明しつつある。

一方のニセヨツボシテントウダマシの国内における生息情報は、かなり乏しい状態のままである。本種は、もともとベニヨツボシテントウダマシの亜種として中国の南京から記載されたが、Sogoh & Yoshitomi (2017) によって種に昇格されるとともに